

Web Usability & Accessibility

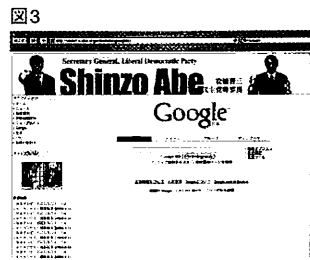
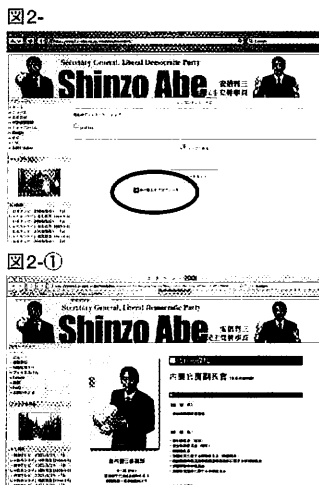
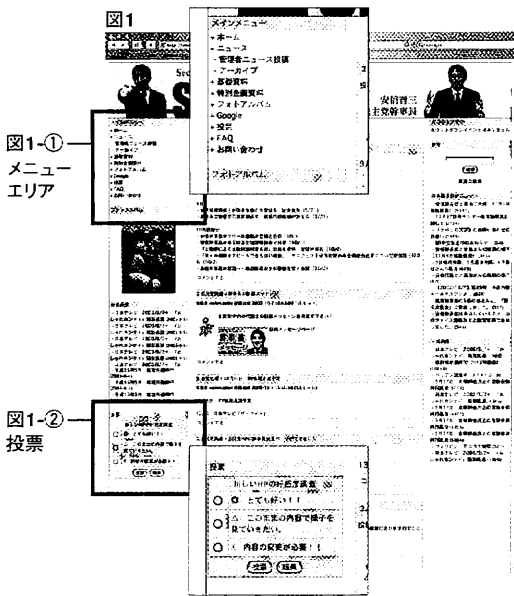
③ 「安部晋三」サイト

http://www.s-abe.or.jp/

進取性は感じるが、人柄や信頼感をサイトに反映しているかは「？」

今や日本の政界を左右する存在となった安部晋三・自由民主党幹事長は、発刊時に日本最大の読者を抱えた「小泉内閣メールマガジン」の初代編集長を務めるなど、政界でのIT実践派の第一人者でもある。政治家としてのもう一つの「顔」でもある安部氏のオフィシャルサイト(事務所運営)では何を語り、何を改革しようとしているのか。弊誌推薦のユーザビリティ&アクセシビリティの論客、濱田・石田両氏が熱き戦いを挑む。

Usability (解説/石田直子)



これを使って資料の検索に役立ててほしいとのことだが、普通は別のウィンドウを開くだろう

Webの世界では新しい技術を入れたサイト構築が盛んです。しかし、FlashやPDFなどのコンテンツはユーザビリティやアクセシビリティ的にも議論されており、このページでも何度か取り上げてきました。なお今回のサイトでは、コンテンツ自体の管理を容易にするCMS(コンテンツマネジメントシステム)の一つが使われています。

【更新や管理を容易にするために】

Webサイトの管理には大変なコスト(作業の時間と置き換えてもいいでしょう)がかかります。とくに情報が日々更新されるようなWebサイトでは、コンテンツの更新や管理作業はより煩雑になります。

CMSはコミュニケーションサイトやポータルサイトを簡単に構築し、情報更新や管理をWebブラウザなどから行えるシステムです。CMSを使うことでニュースのような情報記事の投稿や、サイト内リンクによる情報管理や検索などの機能が実装できます。更新する立場にとっても、ユーザビリティの高いツールだと言えます。また利用者側のユーザビリティの点でも、基本的なナビゲーションの部分や、デザインテンプレートが用意されているので、ページごとにデザイン方針が大幅に変わることがありません。

しかし良いツールであっても、やはりコンテンツの内容や見せ方は作り手の配慮が欠かせません。

【CMSの利点は生かされているのか】

安部晋三氏のページでは、xoopsというCMS

が使われています。安部氏のように日々の行動や発言が注目されている人のサイトとして、管理のしやすさは重要なポイントです。実際、このサイトではCMSの利点を生かし、迅速な情報発信を行っています。

一方、CMSの機能を使うが故に、情報整理が画一的になるという面も否めません。メインページでは安部氏関連のニュースが時系列に投稿されています。これらは新着情報ではありますが、本文までメインページに載せる必要はないでしょう。細かい情報を伝えることは重要ですが、ニュースはコンテンツの一つであり、メインページでこれだけの面積を有する必要性は見あたりません。

またCMSの投票機能を使ったホームページの投票(図1-②)がありますが、この投票がユーザーにとって意味があるものなのかは疑問です。設定の問題かもしれませんが、文字も小さく、読みやすいとは言えません。

【政治家サイトとして求められるものは】

代議士のページに必要なものは何でしょうか。選挙を戦う人として、個人の考えやこれまでの経歴、日ごろの活動から、その人柄や信頼感を感じさせるサイトが理想でしょう(筆者は政治にそれほど明るくないので、作り手の意図は違いますが)。

安部氏のサイトのメニューには、「プロフィール」や「経歴」といったわかりやすい名称がなく、「基礎資料」というタイトルで載せられています(図1-③

拡大)。他にもメニューの言葉には、「特別企画資料」などわかりにくいものが多いようです。これでは安部氏自身を説明する内容とはわからないでしょう。またGoogleサーチがメニューに入っているのも実用向きではありません(図3)。

ニュースは日々の活動を追うのにはよくても、無機質な印象が否めません。別エリアで掲載されている写真との関連性をつけるなど、読みやすさやイメージづくりへの配慮も少しは必要ではないでしょうか。

さて、私の執筆は今回で終了となります。この間ユーザビリティに対する意識を作り手、受け手の双方が持つ時代になってきたなあと感じています。長い間応援いただき、誠にありがとうございました。

----- 評価 -----

サイトの目的が伝わること ★★
何かがそのサイトの狙いなのかをトップページで表現します。

学習しやすさ ★★
すぐそれを使い始められるように、全体像と次に何をすべきかを伝えています。

効率性 ★★★★★
デザインや構成が統一されていると作業の効率性が上がります。

記憶しやすさ ★★★★★
上記と同じく、デザインや構成が統一されていると記憶しやすくなります。

エラーを少なく ★★★★★
エラーはないほうがよいのですが、避けられないものでもあります。回復方法が明確になるように。

満足を与える ★★★★★
ユーザーにとって楽しかったり、有益であったりというメリットが必要です。

総合評価 ★★★★★

新しい技術への対応は評価しますが、サイトとして提供する内容があまりであるため、うまく生かされていないようです。



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット

URL <http://www.udit-jp.com>

「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

Accessibility (解説/濱田英雄)

今後改善されるでしょうが、「安部晋三のホームページ」には、アクセシビリティ上の問題点がかなり見られました。

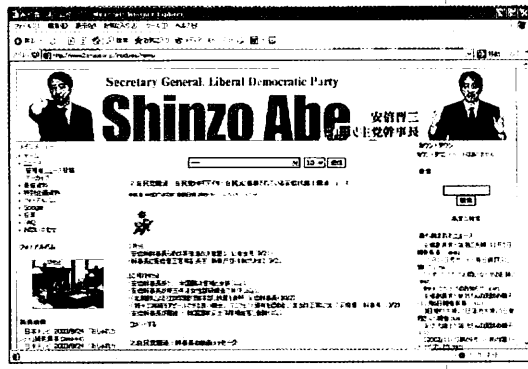
【制作サイズの問題】(図4)(図5)

図4



横サイズ 800px

図5



横サイズ 1,048px

このサイトの横サイズは1,048pxもあり、横スクロールバーが出てしまいます。画面の領域サイズは1,024px以上が主流になってきましたが、ユーザーが必ずしも画面の領域をフルサイズで使っているとは限りません。弱視の人が画面領域を小さくしている場合もあります。有識者の中には横サイズ640pxを推奨する人もいますし、横サイズは800pxを超えない方が無難でしょう。

【画像の軽さ】(図6)(図7)

図6



画像をできるだけ軽く作るとは、接続環境があまりよくない人だけでなく、多くの人に負荷をか

けないことになります。ちなみにこのトップページの画像(図6)は49.8KBあり、保存をJPGにすると30.7KBになりました。

また、この600px×411pxの画像(図7)は289KBありますが、Web用に保存したところ、65.1KBと4分の1以下になりました。美術写真など、高画質にする必然性がなければ、できるだけ軽くすべきです。

図7



【テキストリンクの文章】(図8)(図9)

図8

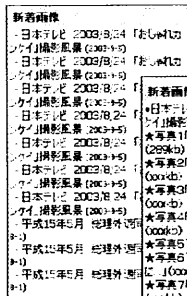
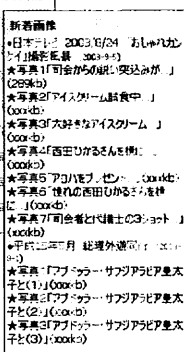


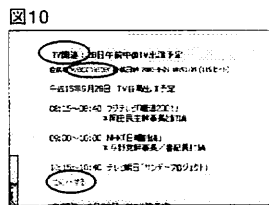
図9



トップページ左にある新着画像へのリンクの文章(図8)は同じものが並んでいます。音声で聞いた場合、同じ文章が繰り返され、理解しにくく違いがわかりません。同じ番組の画像であっても、図9のように番号や写真説明の内容の一部を入れるなどして区別してみてもどうでしょう。

【リンクの認識】(図10)

サイド全体にわたって、ニュースなどの各コーナーのテキストリンクが普通のテキストと区別のつ

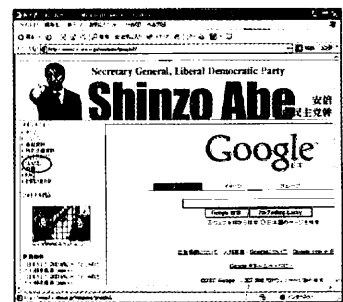


きにくい配色になっています。現在はマウスポインターをあてるとオレンジ色に変わり、ラインが表示されるようになっていますが、マウス操作が困難な人がページを見ただけでわかるように下線を表示するか、あらかじめ色を変えるなどの配慮が必要です。

【リンク先の表示】(図11)

メニューにある検索サイトの「Google」ですが、このようにして中に取り込むと、音声ばかりではなく、一般の人にもサイトの一部のような誤解を与えます。フレーム中に別サイトを入れることは避けましょう。

図11



評価

画像にはALT属性をつけること ★★★
ALT属性はついているようですが、適切でないところがあります。

リンクボタンになっている画像のすべてにALT属性を使ってリンク先を明確にすること ★★★
一部ALT属性が入っていないものがあります。

日本語のページでは外国語の乱用はせず、誰にでもわかるように配慮すること ★★★
少しカタカナ用語が多いような気がします。

色によって伝えられる情報は、色がなくても伝わるようにすること ★★★
テキストリンクの色の問題がありますが、それ以外はさほど問題ないと思います。

HEADにつける<TITLE>は内容がわかるように適切なタイトルをつけること ★
同じ<title>が使われています。

レイアウトのテーブルは、情報が適切に音声ブラウザで読み上げられること ★★★
概ね読み上げられると思います。

総合評価 ★★★

まだ完成ではないと思われるので、アクセシビリティへの配慮を期待します。